

取組と目標に対する自己評価シート（フェイスシート）

市町名	大崎上島町
所属名	健康福祉課 保険係
担当者名	田原 香利
連絡先(電話)	0846-62-0301

タイトル	3 地域包括ケアシステムの深化・推進 在宅医療・介護連携の推進
区分(あてはまるものにチェックを)	☒ 自立支援、介護予防、重度化防止 ☐ 介護給付費等適正化

現状と課題											
町内の医療機関・介護事業所・介護施設との連携は、顔の見える関係でスムーズに調整されている。 しかし、町内には入院医療機関が実質無いため、手術や入院が必要な場合は、町外の医療機関にかかる必要がある。また、在宅療養中の体調急変時の入院は、町外・豊田郡医師会外しか病院がないため、各医院が個別に築いた病診連携で対応がされている現状である。 課題は、病診連携が自治体内で完結できず、システム化・統一化できていない。 在宅医療・介護連携推進コーディネーターの配置にふさわしい場所や人材の確保も困難な状況で配置できていない。 在宅での療養体制や看取り時の医師等の医療専門職及び介護専門職の確保が今後困難となってくることが予測される。											
第9期（令和7年度）における具体的な取組											
住民が過ごしたい場所でできる限り暮らせることが目的に事業に取り組んでいる。まずは、本人の意思を明確にしておくことが重要であると考えることから元気なうちから繰り返し、ACPについて考え、家族や関係者と話し合える環境の整備が必要である。そこで、ACP「人生の彩ノート」の書き方講習会の開催やサロン等での普及啓発を継続して実施した。 町内の在宅医療・介護連携資源マップの更新をおおむね年1回実施。 在宅医療・介護連携推進会議を開催し課題等の抽出や事業の展開について検討した。											
目標（事業内容、指標等）											
（事業内容） <table> <tr> <td>ACP「人生の彩ノート」の書き方講習会</td><td>1回/年</td></tr> <tr> <td>サロン等でのACP普及啓発</td><td>25回/3年（約8回/年）</td></tr> <tr> <td>認知症講演会等でのACPの普及啓発</td><td>1回/年</td></tr> <tr> <td>在宅医療・介護連携資源マップの更新</td><td>1回/年</td></tr> <tr> <td>在宅医療・介護連携推進会議の開催</td><td>1回/年</td></tr> </table>		ACP「人生の彩ノート」の書き方講習会	1回/年	サロン等でのACP普及啓発	25回/3年（約8回/年）	認知症講演会等でのACPの普及啓発	1回/年	在宅医療・介護連携資源マップの更新	1回/年	在宅医療・介護連携推進会議の開催	1回/年
ACP「人生の彩ノート」の書き方講習会	1回/年										
サロン等でのACP普及啓発	25回/3年（約8回/年）										
認知症講演会等でのACPの普及啓発	1回/年										
在宅医療・介護連携資源マップの更新	1回/年										
在宅医療・介護連携推進会議の開催	1回/年										

指標	8 期の現状	R6 年度	R7 年度	目標値
退院調整率の維持	100.0%	100.0	71.4	100.0
自宅や老人ホーム等での死亡率の増加	15.1%	－		16.0
ACP「人生会議」を知っている人の増加	27%	－		36.0

退院調整率：県退院調整率等調査結果は、該当 7 人の内 2 人について病院からの連絡がなかったため調整率が下がっている。ただし、町内調査対象 4 事業所の内 1 事業所が回答していない。

目標の評価方法

○退院調整率は、県が毎年 6 月または 7 月の 1 か月間を調査機関とする調査の数値

○自宅や老人ホーム等での死亡率の増加と ACP「人生会議」を知っている人の増加については、介護予防・日常生活圏域ニーズ調査時に調査。10 期計画の介護予防・日常生活圏域ニーズ調査では独自項目は追加しなかったため、別のアンケートにより実施。

取組と目標に対する自己評価シート(自己評価結果)

(実績評価)

実施内容		
(実施内容)		
ACP「人生の彩ノート」の書き方講習会	1 回/年	145 人
サロン等での ACP 普及啓発	2 回/年	24 人
認知症講演会等での普及啓発	1 回/年	17 人
町広報での普及啓発	1 回/年	
在宅医療・介護連携資源マップの更新	1 回/年	
在宅医療・介護連携推進会議の開催	1 回/年	
自己評価結果 【△】←(◎, ○, △, ×のいずれか※を記載してください。)		
ACP「人生の彩ノート」の書き方講習会と認知症講演会等での普及啓発は計画通り実施できた。 サロン等での ACP 普及啓発については、サロン側の都合があるため、無理やり実施するわけにはいかないためこちらの計画通りには普及啓発活動を進められていない。 在宅医療・介護連携資源マップの更新は、計画通り実施できた。 在宅医療・介護連携推進会議を開催し国等の動きについてオブザーバーに情報提供をもらった。なお、町内の医療機関と介護関係者の連携は取れている。		

課題と対応策

サロンでの普及啓発は、相手方の都合もあるためこちらの都合のみでは実施できないため、別の普及啓発場所も検討が必要。

町内の医療機関と介護関係者は小規模な町なので顔の見える関係性ができているが、今後は、従事者の不足が予測されている。それに向けて在宅医療・介護連携推進会議や上位会議に位置付けられている地域ケア推進会議で検討をしていく必要がある。

※「◎達成できた、○概ね達成できた、△達成はやや不十分、×全く達成できなかった」